

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム愛敬(敬ホーム)	評価実施年月日	平成21年8月20日
評価実施構成員氏名	梶山圭子 荒谷加津江 佐藤幸子 池田信太郎 菅原幹子 稲垣由紀子 小山美鈴 佐々木智子 西木真希 横田富美子		
記録者氏名	梶山 圭子	記録年月日	平成21年8月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>設立時に「のびのび、ここにこ暖かく。ゆっくり、いっしょに、楽しく」と言う理念を作り実践している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝ミーティングで唱和し常に理念を念頭に置きケアに取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>説明文書の家族と地域の皆さんへの送付、及びホーム内への掲示を行なっている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>挨拶や気軽な声掛けもあり、些細なことでも気にかけてくださり助言を頂いている。お野菜の差し入れも頻繁にあり、よい関係を続けさせていただいている。</p>	○	<p>近隣に対し可能な協力をさせて頂き、円滑な関係を心がけている。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>納涼祭・クリスマス会等の行事への参加やお手伝いを毎年家族会、役場の職員近隣の方々にしていただいております、また小学校との交流、ボランティアの定期的訪問もあり、地域の方々の理解を頂いている。</p>	○	<p>年3回の愛敬便りの全戸回覧を続け、小学校からの行事案内を受け、参加させて頂いている。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会等を通し「役立つこと」について話し合いを行なっている。</p>	○	<p>話し合いを続け、実践・実行に取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善点について受け止め話し合い、具体的改善に向け全員で話し合い、評価に取り組んでいる。	○	話し合いを持ち改善に取り組み、又よい点の向上に取り組み介護に活かすよう努めている。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族会・民生委員・行政職員・包括支援センターが構成委員となり、2ヶ月に1回開催し、地域及び行政機関との情報交換を行っている。	○	日頃より地域・行政と密な情報交換がなされ、会議に役立て理解を深めている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	入所状況・事業所の行事予定等について行政担当に報告を行っている。お便りの配布作業、家族との連絡調整に関しても協力が得られている。	○	毎年、行事のお手伝いや参加を頂いている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部研修で学ぶ機会を設け、必要な場面で対応できる体制をとっている。	○	今後も必要な場面での対応が可能である。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連について非常に関心が強く、全員で話し合い徹底し取り組んでいる。	○	気になる点を話し合い、今後も周知徹底し継続する。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明をさせて頂き、理解を頂いている。	○	今後も本人や家族の不安や疑問の聴取にさらに努めてゆく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見を聴取し受け入れている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回程度、利用者の生活・健康状態について家族に報告させて頂き、面会時にも情報提供させていただいている。職員の異動等についても、お便り等を通じ報告させていただいている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会や家族会にて、意見・要望を聞く機会を設けている。また面会時、お話をさせていただき、意見・要望を聞きミーティングなどで話し合い運営に活かしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全職員の面談を行い、意見聴取の機会を設けている。	○	ミーティング時にも職員からの意見・提案を聞いている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に合わせて勤務の調整を行なっている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日頃同法人での職員交流が行なわれており、利用者とは事業所職員も顔馴染みになっており、職員異動に対する利用者への影響の無いよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員全員が年1回外部研修に参加する機会を設けており、職員は積極的に受講している。受講後報告を行い、報告書を作成し研修の共有に努め、内部研修も行い向上に努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管内の集まり、勉強会に参加し交流を行い、意見交換及びネットワーク作りに取り組んでいる。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	悩みの聴取には常に気お付けており、面談等を行いストレスの軽減に努めている。親睦会を行いストレス軽減に努めている。	○	職員が話しやすい雰囲気を持つようさらに努めていく。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	勤務状況の把握を行い、各自が向上心を持って働くように努めている。	○	現場の意見交換と意見の反映にさらに努めていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	積極的に会話を多く持つことで、本人の気持ちや思いを引き出し答えるよう努めている。	○	不安の軽減と、要望の把握にさらに努めていく。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族に思いを聴き、受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族と接する際にその時必要としている支援の見極めを行い、最善の対応を努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人・家族との事前面談・ホーム見学などしていただき、入所しやすい環境であるよう努めている。「あわてない・まつこと」を基本とし安心して生活していただくよう努めている。	○	職員一同、情報を共有し馴染みやすいようさらに努めていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理・洗濯物たたみ・うた・生活習慣など利用者から教えていただくことも多く、一方的支援にならずに共に支えあい生活を楽しめるよう努めている。	○	利用者の持っている知恵など教えていただきながら、生活に張りを持っていただくようさらに努めていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族へ利用者の状況を伝えるとともに、発見や共感した事柄などもお伝えしともに利用者を支えあえるような関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者と家族の関係を把握する事で、お互いに良好な関係を築いていけるよう配慮し努めている。本人と家族の関係を大切に考え支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時ゆっくりと過ごして頂けるように努めている。家族の協力を得ながら外出されたり、知人の来所があるように務めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	耳の遠い方、会話が困難など、皆が輪に入り会話をもち理解しあい支えあえるよう配慮し勤めている。仲裁に入り関係作りをする中で、支えあい・助け合いが多く見られる。孤独を感じないように注意し対応を行なっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も関係は続いている。又そのご家族の行事参加やお手伝いもある。退所後、遠方のご家族には転居先での面会時の状況の連絡など継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で会話を多く持ち、コミュニケーションを図り本人の希望等の把握に努めている。困難な時には表情などから思いを汲み取り本人本意になる様努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の活用、会話からの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの身体状況や過ごし方の変化を職員間で引継ぎ等を通して連携・共有し状況把握を行なっている。	○	情報の共有と連絡事項の徹底を行なっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月2回のカンファレンスにおいて利用者の状態を検討し、話し合い利用者や家族の希望を取り込んだ介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月1回アセスメントの見直し、3ヶ月ごとの介護計画の見直し、6ヶ月ごとに介護計画の作り直しを行っている。身体的に変化が見られた場合は都度協議し、新たに介護計画の作り直しを行っている。	○	現状に合わせた介護計画となるようにしている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子・状況を介護日誌に記載し情報を職員が共有することで実践や見直しに活かしている。	○	全員が介護計画・見直しに関することで、職員の介護計画への関心が強くなっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院の付添い買い物、行事参加の送迎の支援を行っている。終期末ケアへの対応、長期入院の連絡調整及び退院後のリハビリ対応など、利用者が安心して生活できるよう支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの月2回訪問、小学校等の訪問、警察や消防の防犯防火等の協力を得ながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	家族・本人と相談のうえ、必要に応じ対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの協力は常に行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回かかりつけ医の往診や協力医療機関との連携により、柔軟な医療支援を行っている。医師・看護師との連絡体制もあり緊急時の対応も行なっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的な通院の対応を行ない、医師に状況を伝え、相談・アドバイスを受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常に連絡が取れる体制にあり、相談を行い健康管理に努めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時情報提供を行い、可能な限り良好な入院生活が送れる様支援している。病院関係者と連携し早期退院に向け努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化・終末期の方針に関して看取りの指針があり、事前に利用者家族との話し合いを持ち、事業所内で医療支援が可能な範囲受けられる体制をとっている。職員研修の実施している。	○	家族・Drとの相談を行い、全員で方針の共有を行なっている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	日々利用者の現状を見極め、支援できる事・出来ないことの見極めを行なっている。Drの指示・アドバイスを受けながら対応を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>利用者に関するケア関係者間で情報交換を密に行い、住み替えにおいて利用者が受けるダメージが軽減されるよう努めている。本人が馴染んだケアが継続されるよう支援している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者に対しプライバシーを損ねない声掛けを実践している。記録・情報の取り扱いについては保管場所を確保し注意し適切に行なっている。</p>	○	<p>守秘義務についても徹底し行なっている。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>声掛け・会話を多く持ち本人の思いを引き出し、意見を尊重し納得した生活が送れる様支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の考え・ペースを大切にし、本人の生活への思い・趣味を活かし生活できるよう努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意志・決定を尊重し、又関心が持てるような声掛けを行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>買い物・食事準備・後片づけ等と利用者の希望、力量に合わせても行なっている。食事準備は毎日の生活の中で利用者の楽しみとなっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ・飲み物は希望に添うよう対応している。喫煙・飲酒をされる方は現在いない。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め気持ちよく排泄できるよう支援している。排泄パターンを把握することで、紙パンツの使用量が減り、日常生活が快適に暮らせるようになっている。	○	一覧表を設け、把握に努めている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴する事は可能である。利用者の身体状況・希望に添って対応している。	○	バイタルチェックを行い状態判断を行っている。また脱水に注意し対応している。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者のペースに合わせ支援している。夜間眠れない時などは、介護員が話し相手になったり、好む飲み物の提供を行なうなどし、就寝できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理・畑仕事・掃除等利用者の自主性を尊重しつつ、出来る力を活かした役割・楽しみごとを支援している。	○	どなたにも生活に張りが出るよう、役割を見つけていただく支援を行っている。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族との話し合い、又は本人の意志でホーム管理を依頼されている方が数名おられるが、本人の希望により自由に買い物、支払できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物・観光など利用者の希望に合わせて外出の支援を行なっている。また天気の良い日は外散歩・日光浴を行い、室内においての廊下を活用し運動不足にならないよう支援してる。	○	付き添いを行い支援している。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	天候及び利用者の体調に合わせた中で、外出の支援を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の要望に合わせて対応している。	○	時間に制限等はない。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族・知人の訪問の際、職員は気持ちよい挨拶を心がけ、ゆっくりとくつろいでいただけるよう努めている。	○	訪問の機会が増えるよう心掛けている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングの際などを利用し、全員が正しく理解し身体拘束のないケアを心がけ実践している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間防犯のための施錠は行っているが、日中において施錠はなく利用者は自由に入出りが出来る。利用者の様子に合わせて、介護員が見守り・付き添いを行い本人に合わせた支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>全職員が常に意識し、安全確保に努めている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>保管場所を決め必要に応じ使用していただいている。一人ひとりの状況に応じ危険防止の取り組みを行なっている。</p>	○	<p>使用時には側で付き添うなどの対応をしている。</p>
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>誤薬の無いよう細心の注意を払って行なっている。配薬する者・服薬対応する者のチェック、服薬終了までの見守り・服薬中の他者の薬管理など徹底し行なっている。食事の際、介護員の配置を考え窒息等の無いよう支援している。救命講習・避難訓練・で知識を学び、事故防止に努めるとともに緊急時の対応を行なっている。</p>	○	<p>年2回救命講習・避難訓練を行なっている。</p>
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>定期的に訓練を受け、また内部学習を行い急変時に備えている。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>定期的な防犯避難訓練及び避難時の研修を行い、災害に対応できるよう備えている。行政・地域の連携による緊急時対応の協力体制も出来ている。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>家族にその都度リスクについての説明を行い、リスクに配慮しつつ本人らしい生活が送れる様支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	午前・午後バイタルを行い個々の体調変化を見逃さないよう細心の注意を払っている。体調の変化が見られた際は、都度職員で話し合い適切な対応を行なっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が薬について理解するよう努め、配薬に携わっている。服薬時も確認を重ね注意を払い支援にあたっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便状況を把握し、水分摂取や散歩・食事内容の対応を行なっている。服薬が必要とされる方についてもDrの指示を受け調整を行い対応を行っている。排便が及ぼす影響も理解しており対応にあたっている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりに合った食前・食後のうがい・歯磨きを行なっている。食前は緑茶でのうがいを行なっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合った量・栄養バランスを提供している。毎日水分量・食事量を記録し、職員間で情報を共有している。献立内容を栄養士に見てもらい、バランスの取れた食事が提供できるよう努めている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策委員会を毎月1回開催し、ミーティングを通し全員に周知徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具・食器等の煮沸消毒を行ない、食材の管理にも注意をはらっている。また作り置きのないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花を園の周りに置き家庭的であるよう考え、気軽に訪問して頂ける様心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間に利用者全員が座れるようソファを配置し、みんなでくつろげるよう場所を確保している。ホール以外でも思い思いにくつろげるよう配慮し、壁などには季節を感じることで飾り付けをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に数箇所ベンチを設けたり、利用者同士気兼ねなく会話が出来るよう設置され、楽しく生活していただくよう配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と利用者が相談され自由に馴染みの物を持ち込んでいただくようになっている。また利用者の希望で、職員とともに模様替えされる時もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気を行なうと同時に、温度・湿度にも注意を払い対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・各トイレに手すりを設置し、一人ひとりの機能を活かし自立した生活が送れる様工夫している。必要に応じ手すりを増やすこともある。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりに応じた声掛け・支援に努めている。混乱等が無いよう、会話の内容などにも注意し支援している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏場などは外での日光浴等がいつでも出来るようにベンチを設置し、洗濯干しが出来るよう物干しの設置をしている。可能な限り外での活動が出来るよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

グループホーム愛敬は自然ゆたかな環境を活かし、季節の変化を利用者さんと一緒に楽しむことを多く取り入れています。お弁当を持参して、さくら見物や、紅葉見物に出かけたり、ホーム裏の畑に作物を植えたり、町の体験農田でいもを収穫したり、ホームの周りにはプランターに花を植え、季節毎に咲く花を見ながら、散歩を楽しんだりしています。地域の人々やボランティアの交流も多く、利用者さんがのびのび、にこにこ、暖かく生活を送れるように日々努力しています。